



鐵輪 宮崎精鋼株式会社

名古屋市中川区丸米町一丁目1番地 ☎052-361-2191 令和5年9月号

第85回創立記念式典開催

7月29日(土)、第85回創立記念式典が東海市芸術劇場で開催されました。まず各種表彰(永年勤続・安全・優秀職場・優秀社員・宮崎マイスター・環境改善優良職場)が行われ、受賞者へ大きな拍手が送られました。続いて社長が挨拶されました。要旨は以下の通りです。



永年勤続表彰の様子



社長挨拶の様子

本日表彰をされた皆さんにおかれましては心より感謝、お祝い申し上げます。宮崎精鋼の成長は皆さんの頑張り・貢献と共に存在するものです。今回も、安全・5S・改善提案など表彰をしましたが、レベルが年々向上しており、これも今までの皆さんの努力の積み重ねだと思います。5S・安全の活動についても、常日頃から皆さんが意識して取り組み、具体的な改善をすることでより働きやすい職場になっていると感じますし、各工場のOJT活動も宮崎精鋼の文化に向けて醸成されつつあると実感しています。それぞれ皆さんの持ち場・立場でより機能するための考勤の進化を、工場・事務所共に期待していますのでよろしくお祈りします。

さて、新型コロナウイルスの状況は、今年の5月8日に感染症の分類がインフルエンザと同様の第5類に移行され、ポストコロナとして少しずつ行動の制限の緩和、経済活動の回復が期待されています。一方で、感染者の推移としては4月を底として徐々に感染者数が増え、現在は第9波の様相を呈してきています。社内でも本人の感染や自宅待機含め、今週の最大値では14名が欠勤という状態となりました。各部署、お互いにカバーすることで生産・納期へは影響ないと報告を受けておりますが、一番大切なことは社員皆さんが健康で安全に従事いただくことだと思います。皆さんがコロナに感染しない、拡がらせない意識でしっかり対応していただきますよう、お願いします。

話は変わりますが、6月にメキシコ・アメリカへ出張し、MSMの今年度上期の状況と、下期計画についてヒアリングを行いました。皆さん知っての通り、MSMの生産・販売については、昨年より月間1000tを超え、今年度上期は平均で1230t/月、下期は1360t/月の計画です。メキシコの自動車生産も半導体不足の影響が緩和し、昨年の330万台/年から今年は360~380万台/年まで回復する見通しです。

数量が大幅に回復する中で、見えてきた課題の一つが、「正しい仕事が身についているかどうか」です。モノづくりをする中で、良い製品を正しい時間の中で効率よく、材料ロスを少なくかつ、機械を長く使用できるように点検も実施しながら、お客様に頼られるべくQCDを高めていく。これはメキシコだけでなく日本も同様のことですが、しっかり取り組んでいきましょう。

2023年度の事業環境について、自動車の国内生産は半導体・その他部品不足による影響が徐々に緩和され、サプライチェーンの短いCH鋼線は既に回復傾向に、一方で長い磨棒・ファインスラグは秋以降の回復が予想されています。一方で、中国における日系自動車メーカー、部品メーカーでは現地需要のEVシフトが鮮明になる中、販売が低迷しており不透明な状況が続いています。また、長期化するロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー価格・諸資材の高騰など、経営環境は楽観できる状況ではありません。

今年は、2022年に策定した中期経営計画CIF30(Challenge our Innovative Future 2030)の2年目になります。『お客様から愛され頼られる会社』を目指し、社員の皆さん一人ひとりが自ら考勤し、英知を結集して全員で更なる革新と成長につなげていけたらと思います。最後になりますが、宮崎精鋼・グループ社員皆さんの健勝と一層の発展を祈念して、挨拶に代えさせていただきます。

